

関西大学法学論集 第五十三卷 総目次

論 説

	号	頁	通巻頁
権利能力と法人格について・序説……………	福瀧博之……………	(一)	(一)
——Ulrich Huberの権利能力と法人格の理解——			
ヨーロッパキリスト教民主主義試論……………	土倉莞爾……………	(五六)	(五六)
アーネスト・ハースのリベラル・ナシヨナリズム論……………	上野智史……………	(二一七)	(一一七)
——日本の国民国家形成を考察の手がかりに——			
被害者の承諾における欺罔・錯誤 (二・完) ……	森永真綱……………	(二〇四)	(二〇四)
イギリス刑事証拠開示の新動向……………	松代剛枝……………	(一)	(二六一)
——Criminal Procedure and Investigations Act 1996の運用をめぐって——			
節度使が継母を射殺した話……………	佐立治人……………	(三二)	(二九二)
住民投票の背景・現状・課題……………	脇坂徹……………	(五四)	(三二四)

国際紛争処理機関の並存に関する一考察……………吉原 司……………(一三〇)(三九〇)

——ラグラン事件を素材として——

ドイツ法における民法上の組合の法人性……………福瀧 博之……………(一)(四八五)

——Thomas Raiser の見解——

フランスおよびベルギーにおける団体・会社法の法典化……………後藤 元伸……………(四六)(五三〇)

損失補償要否基準における「経済的に有益な利用 (economically beneficial use)」概念に関する一考察……………下 村 誠……………(八二)(五六六)

——アメリカの土地利用規制に関する裁判例を中心として——

フランス政治における保守勢力の復活?……………森本 哲郎……………(四・五)(一)(七五九)

——二〇〇二年—二〇〇三年の国民の政治意識を手掛かりに——

市民的不服従の思想……………寺 島 俊穂……………(四・五)(三七)(七九五)

ポーランド市民社会におけるアメリカの民主化支援の位置づけ……………大津留(北川)智慧子……………(四・五)(九一)(八四九)

候補者ウェブサイトに對する有権者のアクセス行動……………岡 本 哲 和……………(四・五)(一一五)(八七三)

——二〇〇一年参院選データを基にして——

空クレジット契約・空リース契約における連帯保証人の錯誤……………高森 八四郎……………(四・五)(二四五)(九〇三)

——最高裁平成一四年七月二一日第一小法廷判決を中心にして——

「相続させる」旨の遺言における遺言執行者の登記権限……………千 藤 洋 三……………(四・五)(二三三)(九九一)

買主の追完請求權に對する制限について……………今 西 康 人……………(四・五)(二七六)(一〇三四)

「択一的故意」について……………佐 伯 和 也……………(四・五)(三〇八)(一〇六六)

多数国間条約に付された「両立しない」留保に対する異議の法的効果……………中野徹也……………四・五(三六五) (一一二二)

——北欧諸国の実行をめぐって——
国際私法の起源から国際租税法の連結点考察までの過程……………本浪章市……………四・五(四〇四) (一一六二)

表見代理理論の新展開……………高森哉子……………四・五(四三九) (一一九七)

法制史上より見た部落問題……………吉田徳夫……………六 (一一二六七)

法科大学院における民事法の教育内容・方法について……………今西康人……………六 (二二八) (二二九四)

——教材開発及び模擬授業の経験を踏まえて——

ヘイト・スピーチの害悪と規制の可能性 (一)……………奈須裕治……………六 (五三) (二二九九)

——アメリカの諸学説の検討——

違法性の錯誤と負担の分配……………一原亜貴子……………六 (二〇四) (一三七〇)

研究ノート

条約法条約の逐条コメンタリー (一)……………条約法研究会……………二 (二七四) (四三四)

条約法条約の逐条コメンタリー (二)……………条約法研究会……………三 (二二五) (六〇九)

判例研究

銃砲刀剣類所持等取締法違反(けん銃等所持)の共謀共同正犯の成否……………山中敬……………一……………三 (二八〇) (六六四)

(最高裁平成15年5月1日(第一小法廷) 決定平成14年(あ)第一六四号) 判例集未登載

翻 訳

クリストファー・ホルマン著
 人権による人権の克服……………村田尚紀(訳)……………六 (二三一) (二三九七)

資 料

英国国際私法判例 (H15—1) ……本浪章市……………一 (二四一) (二四二)
 英国国際私法判例 (H15—2) ……本浪章市……………三 (二一八) (七〇二)
 『イラク戦争』分析のもう一つの視点……………真鍋俊二……………六 (二四七) (二四一三)
 —酒井啓子著『フセイン・イラク政権の支配構造』から—

書 評

辰巳浅嗣著
 『EUの外交・安全保障政策——欧州政治統合の歩み——』……………土倉莞爾……………三 (二四三) (七二七)
 (成文堂、二〇〇一年)